

4 困っている人に寄り添おう

ワーク 1

次の体験談を読み、それぞれが何に困っているかを考えましょう。

Aさんの体験談

Aさんは幼いころに事故に遭い、その後遺症で両足が不自由になり車椅子で生活しています。現在は自宅から2駅離れたところにある高校に、電車を利用して通っています。階段の上り下りや段差のあるところでは一人で移動することができず、電車を乗り降りする時も、必ず駅員さんの助けを借りています。

ある日、ホームから改札口へ行く時に、いつものようにエレベーターを利用しようとしたところ、大きなスポーツバッグを持った他校の生徒たちが何人もエレベーターの前に並んでいました。Aさんは特に急いでいたわけではありませんでしたが、なかなかエレベーターに乗ることができず困っていました。また、まわりの人たちが迷惑そうな顔をしながらAさんをよけて歩いているような気がして、申し訳ない気持ちになりました。

(1) Aさんが普段の生活で何に困っているか、考えつく限り挙げてみましょう。

(2) Aさんの感じている嫌な思いや苦しい思い、実際に困っていることを少しでもなくすためには、どういうことが必要でしょうか。

Bさんの体験談

Bさんは、小さいころから会話によるコミュニケーションが苦手で、音声のみで伝えられたことをうまく理解できません。聞こえていないわけではなく、声は伝わっているのですが、内容を理解することができないのです。一度インプットされた予定や物事を変更することは難しく、急な予定変更等があった場合は、自分がどうすればいいのか、いつも分からなくなります。今、何をやる時間なのかがはっきりしていないと不安になり、そわそわと落ち着きがなくなってしまいます。

また、Bさんは人と話していても急にその場にそぐわないことを言ってしまいます。興味のあることには夢中になり、自分の知っていることや話したいことを次々としゃべるのですが、興味のないことには全く無関心です。本人に悪気はないのですが、そういう態度をとってしまうため、クラスでは孤立気味です。

(3) Bさんが普段の生活で何に困っているか、考えつく限り挙げてみましょう。

(4) Bさんの感じている嫌な思いや苦しい思い、実際に困っていることを少しでもなくすためには、どういうことが必要でしょうか。

ワーク2

(1) ワーク1で挙げたことについてグループでの意見交換を通して、気づいたことや考えたことを書きましょう。

Aさんの場合

Bさんの場合

(2) (1)で発表したことをもとに、AさんやBさんのような人たちのために、どのようなことに気をつければよいか、グループで意見交換し、その内容をまとめましょう。

Aさんの場合

Bさんの場合

まとめ

今回の学習を通して、学んだことや考えたことを書きましょう。

解説 4 困っている人に寄り添おう

1 ねらい

障害のある人々が日常生活でどのようなことに困っているかを考え、相手の立場に立って物事を考え行動することの大切さを感じるとともに、社会でお互いが気持ちよく生活するために、一人ひとりがどんなことに気をつける必要があるかについての理解を深める。

2 進め方

展開例（50分 3～4人のグループを作る）

学習活動	指導上の留意点
<p>1 ワーク1 (14分)</p> <p>① Aさんの体験談を読み、Aさんが日常生活で感じている困り感や実際に困っていることを少しでもなくすためには、どういうことが必要かについて考え書く。(1)(2)</p> <p>② Bさんについても同様に行う。(3)(4)</p>	
<p>2 ワーク2 (30分)</p> <p>① ワーク1で各自が書いたことについて、グループ内で発表する。(1)</p> <p>② (1)で意見交換した内容をもとに、グループで意見をまとめる。(2)</p> <p>③ (2)について全体に発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 他の人の意見を聞いて気づいたことなどは適宜メモを取るよう促す。○ 出された意見について、どんな配慮ができるのか具体的に考えるよう伝える。○ (1)でメモした他の人の意見で気づいたことを発表し合うことも、話し合いに効果的であることを伝える。○ 他の人の意見を共感的に受け止めるようにするなど、互いの意見は尊重するよう促す。
<p>3 まとめ (6分)</p> <p>① 個人で振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none">○ グループワークや全体発表等、他の人の意見を聞くことで自分の中にどのような変化があったかを意識して振り返るよう促す。

3 解説

Aさんの体験談は、身体に障害のある人の日常生活における困り感を想定して作成したものである。ここに出てくる「他校の生徒」たちのふるまいは、Aさんに「エレベーターに乗れない」という物理的な困難だけでなく、「他の人に自分が邪魔だと思われているのではないか」という精神的なストレスもあたえている。そうでなくとも、通勤・通学時間帯の駅など混雑した場所はストレスになりがちである。

身体に障害があり不自由さを感じている人の立場に立って、そのような人たちの困り感やストレスを少しでも緩和し、お互いが気持ちよく生活するためには自分たちがどのようなふるまいをすべきかを考えさせたい。

Bさんの体験談は、会話によるコミュニケーションが苦手な人や、人と話していても急にその場にそぐわないことを言ってしまう人の困り感を想定して作成した。外部から分かりやすい障害と比べ、コミュニケーションが苦手な人や、人と話していても急にその場にそぐわないことを言ってしまう人の感じている困り感は認識しにくいものである。

そういう様々な困り感を持った人がいるかもしれないことを理解し、それをその人の特性として受け止め、困っている時には手助けをすることが自然にできるような社会づくりの重要性について考えさせたい。「そんなこと言わなくても分かるだろう」と一般的には思われることでも、様々な特性がある人がいるのだということを考えさせ、相手の気持ちに寄り添い配慮する意識を育みたい。